

匹見地域協議会（第5回）会議次第

日時 平成30年2月20日（火）13:30～

場所 匹見タウンホール 集会ホール

出席者（委員） 藤谷 一剣・齋藤 惟人・大谷 文男・西川 友史・大久保純子
溝田 洋子・村上 巴・河本 亮・齋藤 光・齋藤 幸士
（益田市） 河上政策企画局長・野村政策企画課長
山口支所長・藤井住民福祉課長・藤井地域づくり推進課長・露口建設課長
事務局（桐木・大谷）

1 開会

2 会長あいさつ

3 【議題】

（1）美都・匹見総合支所の見直しについて〈資料 1〉

（2）新市建設計画について〈資料 2〉

4 その他

次回開催 平成 年 月 日（ ） 時 分～

主催者名	匹見総合支所住民福祉課
会議名	平成 29 年度 第 5 回 匹見地域協議会
開催日時	平成 30 年 2 月 20 日（火） 13 時 27 分～16 時 15 分
開催場所	益田市匹見タウンホール 集会ホール
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 匹見地域協議会委員（9 名） ・ 政策企画局：河上局長 ・ 匹見総合支所：山口支所長 住民福祉課：藤井課長、桐木補佐、大谷 地域づくり推進課：藤井課長

【会長あいさつ】

今日は 1 名の欠席。S38 年以来の豪雪で、まだまだ春は程遠いような季節です。別段新しいことはないが、本日は支所の見直しと新市建設計画の 2 つの議題で審議いただきたい。この 10 年活気がない。元気がない地域があちこち出ており、この先が不安である。何とかしないといけない思いも抱えながらやっているが、皆さんの貴重な審議をお願いしたい。

【議題】

(1) 美都・匹見総合支所の見直しについて <資料 1 河上局長より説明>

- 総合支所は存続が基本。1 課 3 分室の体制とし支所長は政策企画局長が兼務する。
- 政策的に両支所を益田市全体で政策として考えていく体制づくり。業務は本庁の各部と直結して遂行することにより機能強化になると考えている。
- 予算を一つにすることによって、緊急時等、支所で完結できない部分が本庁と繋がることで総額予算が膨らみ住民サービスの向上になると考えている。
- 支所見直しにより手続等が出来なくなることは考えていない。手続き、証明発行、相談等については、今のままの状態を支所を運営していく考え。
- 本庁に移管予定業務として匹見保育所に関する業務を一括化。特産品に関する業務を連携して取り組む考え。
- 職員体制については管理職として課長と参事、分室長 4 名は補佐級で室として設けたい。
- 支所機能の見直しではあるが、職員 1 人 1 人の意識改革、住民サービスの質を高めていかないと支所の存在はないので、住民の期待に応えられるような行政運営をし、今後の行政の発展、地域の発展のために努力していく。

《質疑・意見》

- 本庁と支所との情報連携の取り方はどうなのか。匹見の課題を本庁へ持って帰って予算化するなど対応ができるのか。どういう形の中で協議の場を作るのか。仕組みづくりを本庁の方はしっかり構築していただきたい。
 - ▷分室長、部長、政策企画局長がしっかり協議をして予算要求していく。
 - ▷課長補佐が地域の声を収集・整理し、課長職が的確に判断していき、関係部長は定期的に支所へ足を運び対応を判断する。
 - ▷政策企画局長として積極的に先頭に立って対応する。
- 体制について支所で協議が十分なされたのか。今までのサービスが低下することはないか。
 - ▷本庁と綿密な連携をとりながら、現状の業務の継続と更に地域政策の強化を協議しながらまとめた。今後も細部にわたっての調整が必要。
- 10月の協議会でこの案について皆さんと詰めていくと言ったが、一度も協議した覚えがない。きめ細やかにして欲しかった。
 - ▷12月の時は市長がお邪魔して色々な意見をいただいた。そのことを含め提案した内容をどう詰めていくか検討した。
- 支所長が非常駐であればそれをフォローする仕組みを作るべき。職員の質を上げなければならない。
 - ▷地域振興課長が地域の実情・課題など、地域の要望事項の検証しながら担当部長と協議をしていく形を作っていきたい。
- 地区振興センターの廃止と地域自治組織の関係はどうか。
 - ▷自治組織が出来れば地域振興部分は担えるので、その部分はセンター廃止の案を出した。
 - ▷公民館はこれからも地域の拠点として頑張ってもらいたい。
- 公民館と行政組織は中身が違う。公民館を充実させると言っているが実態はそうではない。地域の実態と少し乖離している気がする。
 - ▷市の職員も地域の中の一住民であるので一緒にやろうと声掛けをして欲しい。
- 組織を動かしていくのは個々の職員であり、職員が本当にこの地域の住民のことを真摯に考えて仕事に取り組むかにかかっている。局長を筆頭に頑張ってもらいたい。
 - ▷皆さん方の信頼関係を含め、取り組みを（局長が）先頭に立ってやらせていただく。
 - ▷人材部分では、益田市内でも人材確保が難しく他地区からセンター長を雇用しているところもある。市としても意見を聞きながら改善に取り組んでいきたい。
- 林業振興室はどういう位置づけか。高齢化で行政に対する需要は高まっていくが今までにない課題が出てくる感じがするのでそういうことを見据えて対応できるような体制をとっていただきたい。
 - ▷支所の見直しではなく、機構改革として農林水産課にして林業部分を匹見の庁舎におき匹見林業振興室になり、林業全般と財産区を含めて対応する。
- 行財再改革は痛みを伴うもので、財政を浮かせようと思えば職員削減が普通。市として先の見通しを考えているのか。
 - ▷厳しい予算で行財政改革の取り組みを行う。
- 美都も含め匹見の何が問題なのかを議論検討する場、問題を掘り起こすシステムを作らないといけない。
- 地区振興センターは3月末で廃止になるのか。
 - ▷来年3月末廃止の方向で案を提示している。まだ整理する課題があるので、結論は今年5月から7月ぐらいになる。
- 森林環境税の関係補助金が益田市に入ってくると思うが、林業分室に対して環境税の使い道を考えているのか。

▷詳細が分かった段階で、お知らせできるようにしたい。

(2) 新市建設計画について <資料2>

○第2回、第4回の地域協議会で議題にあげた。現在の状況を支所から報告し、委員の方から様々なご意見を頂戴した。前回は時間が少ない上、欠席委員が多かったため本日の会議までに考えをまとめていただくことにしていた。何点か絞っていただきたい。

○タウンホールは避難所になっていることから耐震診断が義務付けられた施設となり、耐震補強しなくてはいけない結果となる。耐震工事に合わせ建て替えではなく、耐震補強・改修の方向に切り替えたい。

《質疑・意見》

<特産加工施設整備事業>

●特産加工施設のわさび加工場が老朽化してギリギリに状態。支所の職員も一緒に検討会に入って協議しないと進まない。振興協議会は支所が事務局、先導して積極的に取り組み、加工場問題を早期に解決してほしい。

▷わさび振興協議会の方で、加工施設のあり方検討会を立ち上げて進めていくことになっている。

農協にどんな施設が必要か出してもらい、支所も一緒に事業化に向けた動きをとっていきたい。

▷現施設の老朽化対策については、春の生産に支障が出ないような対応を取っていこうと調整している。

<匹見リフレッシュ構想に基づく周辺施設整備>

●匹見町時代に交流の里事業として土地を購入したものであり、温泉と一体化して交流の里を活かした事業としてやってほしい。

●中央公園の多目的広場をグラウンドゴルフ場に改修してはどうか。

▷野球場のサブグラウンドとして利用している。芝を張るのは良いが、高低差をつけてはいけない。

▷グラウンドゴルフの利用者が多いが利用料は安い。野球をするにはサブグラウンドが必要。

▷匹見峡温泉の老朽化も含め総合的な改修計画等を合わせながら、グラウンドゴルフ場の整備もトータルで検討していきたい。

●温泉を核に考えた方がよい。

<匹見地域活性化基金>

●基金の残高はどれくらいあるのか。H30年度に温泉経費に充てる話になっていたが今どうなっているのか。

▷H29.11月末、26,076,000円。H29年度中に10,750,000円利用予定。H29年度末には15,326,000円になる予定。H30年度の予算は7,256,000円使用計画。H30年度末は8,069,000円になる予定。

●保育所の遠距離通所補助金が今年度で終わるが、継続する形で協議してもらいたい。

▷これまでの経緯で匹見下の児童館が廃止されて10年間という約束だった。

<匹見タウンホールの改修事業>

●タウンホールの建て替えは市が当然やるべきものだと思っていた。改築し美都のようなものを目指すべき。

●合併特例債を活用できるような事業計画を立てる必要がある。

▷合併特例債がどれくらい匹見の事業に投入されたかは把握できていないが残金が限られている状況。美都支所と本庁の耐震化は済んだが、匹見だけ庁舎の耐震化を終えていない。これに充てる予定。

《まとめ》

●タウンホールの改修・農産加工場・温泉を含めたグラウンドゴルフ場、この3つに絞って全部完成するように協力して共に進んでいきたい。職員一体となって進めていただきたい。